



KONAN INFINITY

甲南大学経済学部 概要

■教員数(2025年3月現在)

教授15名／特任教授4名／准教授2名／講師2名

■開講科目数(2025年度入学生対象)

基礎科目10科目／中級科目28科目／上級科目53科目／その他科目53科目

甲南大学のリアルな
キャンパスライフをお届けします
[Instagramはどちらから▶](#)



甲南大学の魅力やイベント情報を
公式キャラクター「なんぼーくん」
がつぶやきます
[X\(旧Twitter\)はどちらから▶](#)



経済学部の最新情報を
お届けします
[ニュースバックナンバーはどちらから▶](#)



「ANNUAL REPORT 2024」をお読みいただき、誠にありがとうございました。
学生たちが自分らしく成長する様子やサポートする教職員の姿が少しでも皆様に届けば幸いです。
また、よろしければ今後の制作に向けて、みなさまのご感想をお聞かせください(所要時間3~5分程度)。

※本アンケートは、回答者様を特定することはありません。

※お寄せいただいたご意見・ご感想は「ANNUAL REPORT」の制作、ならびに付随する
業務のためだけに活用し、一般公開することはありません。



▲アンケートは
どちらから

甲南大学経済学部は、学生の一人ひとりを見守り、
経済学の学修を通じてその成長の手がかりを提供することによって、
経済・社会問題を的確に捉え、筋道を立てて問題を考えて、
自らの力で解決策を示すことのできる知性と創造力を備え、
広く社会に貢献できる人材を養成することを教育の基本方針としています。



平素より、甲南大学の取り組みにご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。
このたび、経済学部の“ANNUAL REPORT 2024”をお届けいたします。
個性を重視し、学生一人ひとりの才能を引き出す教育プログラム「彩り教育」を中心に、
多様で充実した学びの場を提供してまいりました。

Colorful 多彩な学びの2024年

本年度のレポートでは、地元企業との連携による実践的なプロジェクト型学習や、
幅広いテーマから課題を見出す独自性豊かなゼミ活動の紹介に加え、
就職活動を終えた内定者による「座談会」を開催し生の声を集めました。
学生たちのカラフルなこの一年間の成長の軌跡をぜひご覧ください。



01 ANNUAL REPORT 2024

入学宣誓式
新入生歓迎会
新入生履修指導

前期講演会
教育懇談会

ゼミI選考

経営者サロン
成績優秀者表彰式
プロジェクトゼミ発表会
前期定期試験

メッセージ▶P.3~4
プロジェクトゼミ▶P.5~6
森本ゼミ活動報告
インナーゼミナール▶P.7~8

4 April

5 May

6 June

7 July

8 August

9 September

10 October

11 November

夏期休業

後期授業開始
ペストレクチャー

後期講演会
シンポジウム

撮津祭(大学祭)

ペストレクチャー▶P.9~10
国際交流体験記▶P.11~12
キャリア座談会▶P.13~14

経済学部の一年の歩み

One Year's Progress



学位記授与式
上級生履修指導
入学前スクーリング②

入学前スクーリング①

後期定期試験

インナーゼミナール大会
インターンシップ報告会
アクティブラーニング
プログラム

ペストレクチャー▶P.9~10
国際交流体験記▶P.11~12
キャリア座談会▶P.13~14



02

甲南大学経済学部が目指す教育とは？

>>「一人ひとりの個性を尊重した教育」への取り組み

甲南大学経済学部は「一人ひとりの個性を尊重する教育」を重視しています。社会が急速に変化する中で、企業が求める人材像も変わり「個性が際立つ学生」や「他者とは異なる価値を持つ学生」が注目される時代です。本学部では、学生が学びや多様な経験を通じて自己理解を深め、「自分の強みは何か？」を発見し、それを活かす力を養うことを重要視しています。そのため受け身の姿勢ではなく、主体的に考え行動する力を育む「アクティブラーニング」を提供しています。

現在の社会課題にどう向き合うか？

>>地方の人材不足と企業の跡継ぎ問題

日本社会が直面している課題のひとつが、地方における人材不足です。特に長い歴史を持つ企業が後継者の不在によって廃業を余儀なくされるケースが増加しています。また、東京一極集中の影響で、地方の優秀な人材が不足している現状も深刻です。これらの課題に対し、本学として何ができるのかを模索することが重要です。そんな課題への取り組みの一つが「経営者サロン」です。本学の卒業生である起業家を招き講話していただく機会を作ります。成功談だけでなく失敗や困難を乗り越えた経験についても、率直に語っていく点がサロンのポイントです。学生たちが将来の選択を考える際、失敗談や裏話を知ることで、より現実的な視点を持って、自身の個性を未来に活かすヒントを得る場を提供します。

2025年に向けた展望

>>地元企業との連携をさらに強化

地元企業との連携をさらに強化していくたいと考えています。阪神間には素晴らしい中小企業や、業界シェアNo.1を誇るBtoB企業が数多く存在します。これらの地元企業と学生をマッチングすることで、双方にとって有益な関係を築きたいと考えています。より良い就職の場を提供し、地域経済の発展と学生のキャリア形成を同時に支えることを目指しています。



一人ひとりの個性を彩り、社会の
課題解決に貢献する人材を輩出したい。

2024年度 甲南大学経済学部長
石川路子（専門：地域経済学）
吉田颯太郎さん
3年次

挑戦で彩られた経験が、
どんどん夢を引き寄せてくる。



甲南大学に入学した頃に立てた目標は？

>>様々な事にどん欲に挑戦

高校時代はバスケットボールに熱中していましたが、甲南大学に入学したことを機に新しいことへドンドン挑戦しようと決意しました。当時はコロナ禍で活動が制限される中、「このままでは時間だけが過ぎてしまう。やりたいことは自分で見つけに行かないといけない」と考え、積極的に行動を開始しました。それが甲南大学生活スタート時の決意でした。

将来に対する展望はもっていましたか？

>>海外で活躍する夢

次第に「海外でITエンジニアとして働きたい」という夢を抱くようになりました。しかし、その夢が自分に合っているのか、外国での生活がどんなものなのかを実際に確かめる必要があると感じ、3年次前期にカナダ・バンクーバーへの留学を決意しました。留学の目的は英語力を磨くことでしたが、それだけではなく、カナダの友人とともにWEBアプリを制作したり、AI技術を活用した「ChatGPTと株価予測」に関する論文を独学で書いたりと、実りの多い半年間を過ごしました。この経験は、後の就職活動にも大きく役立つものとなりました。



帰国後の就職活動は何を心がけましたか？

>>夢を叶えるための準備

就職活動は計画的に進め、興味のある企業をランク分けして効率よく面接を受けました。その結果、6~7社から内定を得ることができ、最終的には米国の外資系IT企業を選びました。これにより、海外でITエンジニアとして活躍する夢に一歩近づくことができました。

今後は働きながらさらなるスキルを磨き、余裕があれば大学院に進学し、より専門的な知識を深めていきたいと考えています。

「社会実装型の研究課題に取り組むプロジェクト」
プロジェクトゼミ
Project Seminar

今回のプロジェクトゼミは、地元企業のフェリシモとのコラボで
4月にリニューアルした「神戸ポートタワー」をテーマに
20名の学生が5チームに分かれて、課題に取り組みました。



宮本講師:「今回、フェリシモから『ポートタワーの年間来場者数を増やしたい(30万人を60万人に)。それを実現するために、みなさんと同世代のワカモノがポートタワーに来なくなるような企画を考えて提案する。』という課題が出されました。このテーマを聞いてどう感じましたか?」

若槻:「具体的な数値目標が設定されていたことに驚きました。また、その目標を達成する根拠を求められたとき、どう答えるべきか困りましたね。」

川崎:「最初に思いついたのは有名人を呼ぶという、ちょっと他力本願なアイデアでした(笑)。それに加えて、そもそも『若者』って何なのかをきちんと定義するよう言われたのが新鮮でした。」

武田:「いくつか案を考えたのですが、最初の段階ではど

れもボツになって、なかなか苦労しました。」

宮本講師:「みんなで考えた案を検証するために、実際にポートタワーに行ってフィールドワークを行いましたね。その体験はいかがでしたか?」

若槻:「現地に行ってみて、特に外国人観光客が多いことに驚きました。自分が持っていたイメージとは大きく違っていました。」

川崎:「当初は年間バスをもっと売るといった現実的な案を考えていました。でも現地での体験を通じて、もっと楽しい体験を提案しようと方向転換しました。」

宮本講師:「最初の案がうまくいかないのは想定のこと。それでも、失敗を乗り越え、最終プレゼンまでどうもつていくかがポイントでしたね。」

若槻 & 武田:「最終的には、『五感で記憶に残る体験』というテーマを基に、香水が入ったガチャガチャマシーン



プロジェクトゼミとは

企業から提示された研究課題に学生たちが自主的に取り組むPBL(Project-Based Learning)型の授業です。課題解決策を自分たちで立案し、最終的には「公開プレゼンテーション」で研究成果を発表します。「教えてもらう」のではなく「自分たちで考える」実践的な学びを通じて、ビジネスの現場で必要なスキルや知識を深める授業です。



で若者を呼び込むアイデアを考えました。企業に協力をお願いし、コスト試算も行いました。」

川崎:「私たちは『子どもが作った作品』を展示すれば、家族ぐるみで来場するのでは?と仮説を立て、アート系のアイデアを企画しました。」

宮本講師:「そのほかにも、タワーを中心に街全体を巻き込んだスタンプラリーや謎解きツアー、テーマパークのようなポップコーンバケツ企画など、ユニークな案がたくさん生まれました。それぞれの案について、『価値があるのか』『ビジネスとして成立するのか』といった根拠を示すことの重要性も学べたと思います。」

7月9日、フェリシモホールで最終プレゼンテーションが行われました。フェリシモの矢崎和彦社長をはじめとする関係者が参加し、5グループがそれぞれの提案を発表しました。



経済学部2年次 若槻航太さん



経済学部2年次 川崎七帆さん



経済学部2年次 武田珠有さん

宮本舞講師



身近な実例からその問題点を考える 森本ゼミの活動報告!

都市経済学と交通経済学を専門とする森本裕准教授が率いる18名の森本ゼミ。

今年度、3つのチームに分かれて①岡本商店街の活性化 ②電車の有料座席 ③東灘区の地価調査という課題に取り組みました。



経済学部 2年次 上山賢人さん

森本裕准教授

経済学部 2年次 高見樹さん



森本准教授:二人は「東灘区の地価調査」のチームだったけど、このテーマを選んだ理由を教えてください。

高見:甲南大学があるエリアで、身近だったことが大きいですね。それに自分で調査するって面白そうだと思ったんです。

上山:僕は田舎の出身なので、高級住宅地といわれる東灘区と地元の違いを地価という視点から見てみたかった事が興味を持ったきっかけですね。
高見:実は僕ら、最初は地価に関する知識がほとんどなくて、全国地価マップを見ながら「この地域の地価ってこんな感

じなんだ」って遊び感覚で調べるところから始めたんですよ(笑)。
森本准教授:なるほど。この東灘区については、阪急沿線の山側には富裕層が多く住んでいて、阪神沿線の海側は庶民的な地域、という一般的なイメージがありますよね。でも、それが本当に正しいのかを地価の観点から調査してほしい、というのが今回の課題でした。まず、どこから手を付けましたか?



上山:まずは調査対象エリアについて、交通の便や生活の利便性、たとえば駅やコンビニ、小学校、スーパー、病院などへの距離をデータで分析しました。それから、阪急、JR、阪神の沿線を実際に歩いて回って、事前に集めたデータとの違いを議論しました。

高見:それでもわからないことが多いだったので、不動産会社を訪ねて、プロの方から情報をいただきました。そうやって多方面から調査を進めたんです。

上山:その結果、駅や商業施設への距離といった利便性だけじゃなくて、その場所が持つブランドイメージが地価に大きく影響していることに気付いたんです。

森本准教授:それは興味深い視点です。頑張って足を使って調査してくれたのは評価できます。でも、もっとデータを集めることができれば、分析の精度がさらに



向上し、より深い考察が導き出されたかもしれませんね。

上山:確かに、最終プレゼンの質疑応答では、深い質問に答えられないことが多い、詰めが甘かったと痛感しました。

高見:調べたデータに頼るだけじゃなくて、自分の頭で考えて、答えを導き出す力をもっと鍛えるべきだと感じました。

上山:いろんな調査をしたり、粘り強く課題に挑戦した経験を通じて、これからはその力を磨いて、将来に活かしていくたいです。

インナーゼミナール大会



経済学部で約50年の歴史を持つ経済学部インナーゼミナール大会は、毎年12月に実施されるゼミ対抗研究発表会です。この大会は、教員ではなく学生が主体となり企画・運営する経済学部のメインイベント。優秀な発表を行ったゼミには表彰状が授与され、終了後には学内パーティーも開催されます。2024年度も第54回の大会が行われ、全48チームが5教室に分かれて発表を行いました。この大会にはご家族や近隣住民の方々、受験生など、どなたでも見学していただけます。

Best Lecture

ベストレクチャー

今年度のベストレクチャーをご紹介

2024年9月11日、「甲南大学FDシンポジウム〈経済学部2023年度ベストレクチャー 事例報告〉」を行いました。今年度は「大学コンソーシアムひょうご神戸」加盟校からもご参加いただきました。

前半は登壇された寺尾教授・宮本講師、林教授、石川教授・高教授から、各授業の運営方法や意識して取り組んだことについてなどの報告があり、後半の質疑応答では授業内の課題提示方法やチームティーチングを行う際の授業設計の工夫等について、幅広い内容に関しての意見交換がなされました。



ベストレクチャーとは

経済学部では、各教員の授業の進め方や工夫、学生の理解を深めるためのノウハウを全教員で共有して学部全体の授業のクオリティーアップを図るため毎年「授業改善アンケート」を実施。その集計結果をもとにベストレクチャーを選定し表彰しています。

「研究に根ざした学び」 信頼関係が可能にする挑戦と成長

「プロジェクトゼミ」(2年次配当) 寺尾建教授



甲南大学の卒業生であり、社会の最前线で活躍する企業経営者から提示された研究課題に対して、学生が主体的に解決策を構想し、提案する授業です。2023年度は、象印マホービン株式会社の代表取締役社長・市川典男氏より

提示された「甲南の魅力〈変えてはならないこと、変えてはならないこと〉」という研究課題に11名の学生が取り組みました。本授業は2014年度に始まり、10年間担当してきました。この10年間を振り返ってあらためて認識したのは、大学において教育と研究は切り離せない関係にあること、そして、教員と学生での信頼関係が授業の基盤となることです。この10年間の経験は、私にとって大きな財産となりました。

「挑戦と成長の場」 未来を切り開くプロジェクトゼミ

「プロジェクトゼミ」(2年次配当) 宮本舞講師



「プロジェクトゼミ」は2014年度にスタートし、共同担当者は年度ごとに変わりながらも、寺尾教授が10年間一貫して指導されてきた科目です。私は2023年度に寺尾教授とともにこの科目を担当しました。

本授業は2年次前期にスタートし、研究手法の習得から調査、プレゼンテーションまでを短期間に集中的に行うハードな内容ですが、学生たちはこの過程を通じて大きく成長します。今年度も、しっかりと準備された内容を堂々とプレゼンする姿を見て、彼らの成長幅に感銘を受けました。この授業は、学生たちに実力と自信を与え、その後の活動で経済学部を牽引する存在へと成長していく重要な場となっています。

「考える力から行動する力へ」 公共政策の実践

「公共政策」(3・4年次配当) 林亮輔教授



「公共政策」は経済学部の3・4年次生向けの上級科目で、2名の教員によるリレー形式で進められます。私は「日本の公共政策」のパートを担当し、授業を「関心を持つ→知る→学ぶ→考える→行動する」という流れで体

系化しています。最終回では、学生が学んだ知識を活用して実際に政策形成に挑戦し、達成感を得られるよう工夫を凝らしています。さらに、専用アプリを活用し、スマートフォンから「復習クイズ」に回答する仕組みを取り入れるほか、毎回の振り返りアンケートを実施しています。これにより理解度を確認し、新たな疑問を考える機会を提供することで、学生の知的好奇心を刺激し、深い学びへとつなげています。

「経済学の扉を開く」 知的好奇心を刺激する第一歩

「経済入門Ⅰ」(1年次配当) 石川路子教授



「1年次の基礎必修科目「経済入門Ⅰ」では、全15回の授業を3名の教員が担当し、それぞれが「国際経済」「公共経済」「産業経済」の基礎について5回ずつ講義を行います。大学入学後初めて本格的に経済学を学ぶ機

会であり、高校で触れた内容とは異なる視点から、経済学が日常に密接した学問であることを実感してもらうことを目指しています。学生たちの「もっと知りたい」という知的好奇心を引き出すため、わかりやすいレジメや板書を活用しつつ、教員自身が授業を楽しむ姿勢を大切にしています。その熱意が学生たちにも伝わり、経済学の面白さや魅力を感じてもらえるよう、日々工夫を重ねています。



国際交流体験記

2024年の3月～8月、カナダのブリティッシュコロンビア大学に語学留学をした、経済学部3年次の杉田優汰さんにインタビューしました。

高校時代に抱いた夢が、留学のきっかけに

「パイロットになりたい！」。高校3年生の時に突然芽生えたこの夢。必要なのは英語力だと気づいたものの、英語の成績はほぼゼロ(笑)。「特に会話が苦手なので、生きた英語を身に付けるには留学しかない」と考えました。

甲南大学経済学部を選んだ理由

「留学を最優先で考えた結果、ダブルディグリー※という選択肢がある経済学部を選択しました」と語る杉田さん。留学を視野に入れた進路選びから、夢に向けた一歩が始まりました。(※ダブルディグリープログラム：甲南大学とウェーバー州立大学それぞれの学位を同時に取得できるプログラム)

留学準備は念入りに

「2年生の10月にテストを受け、合格してから準備がスタートしました。国際交流センターのオリエンテーションが頻繁に開催され、それに参加して情報を得ました」。さらに、「毎日4か国以上の人と話す」「現地限定のアイテムを買う」など、自分なりの目標をリスト化し、モチベーションを高めていったそうです。



経済学部3年次
杉田優汰さん

カナダを選んだ理由

「カナダ留学を選んだ理由は人々の優しさと多様性でした。ブリティッシュコロンビア大学にはさまざまな人種や文化が共存していて、安心して学べる環境だと感じました。」

カナダ留学のリアルな体験

ホームステイと語学学校での生活

「現地では、國學院大學から来たルームメイトとともにホームステイをしながら、週4日語学学校に通いました。クラスは世界中から集まった20人ほどで、英語の授業を受けました。月に一度、経済学部の指導教員に現地での学びや経験をレポート提出していました。」

週末の楽しみ

「週末は各国の友達と遊びに行くことが多かったです。特に夏は近くの海で泳いだり、キャンプファイヤーをしたりと、最高に楽しかったですね！」

授業内容は段階的に進化

「最初の2か月は会話中心のコミュニケーション授業でしたが、3か月目からはライティングやリーディングなど学術的な英語も学びました。」実践的な内容から、学問のツールとして必要な英語まで幅広く学べたのが印象的だったそうです。

留学を通して得たもの

「やっぱり一番は、世界中に友達ができたことですね。」留学で出会った友人たちとは今でも連絡を取り合い、それが人生の大きな財産となったそうです。そして「パイロット」という夢に一步近づいた実感も。「留学は自分にとって大きな転機でした」と締めくくった杉田さんでした。

まずは学内の国際交流・学内留学から
始めてみよう！ 詳しくはこちら



11 ANNUAL REPORT 2024



12

就職活動を振り返ってみて キャリア座談会

就職活動を乗り越え、内定を獲得した4年次生3人があつまり、
キャリアセンター職員とともに、自身の取り組みや経験を振り返りました。

甲南大学の特徴である、2年次のキャリアゼミについて教えてください。

村上職員:キャリアセンターの職員と教員がタッグを組んで行うゼミ形式の授業です。社会人をゲストに招いたり、企業見学を実施したりして、実際の職場環境や働き方を体験してもらいます。

辻川:私はコクヨ株式会社のオフィスを訪問しました。社員の方々の働く姿を見学した事で、改めて自分が働くイメージを持つことができました。

本格的に就活を意識し始めたのはいつ頃ですか？

柏谷:周りが動き始めているのを知って、焦り出したのが3年生に入つてからですね。友達と同様にキャリアセンターに行って相談し、色々なイベントに参加しました。

下家:僕は3年次前期に半年間留学していたので、帰国後の10月からスタートしました。先輩の就活体験の話を聞いて、急いで情報を集めました。

辻川:私は「自分が何をしたいのか」が定まっていなかったので、まず何から始めればいいのかをラーニングアシスタント※の先輩に色々と相談しました。

※ラーニングアシスタントとは、先輩学生が後輩学生の学びを支援する取り組み

キャリアセンター職員
村上雅亮さん

辻川さん

下家さん

柏谷さん

先輩からのメッセージ

●甲南大学での学びは、社会人生活にどう活かされていますか？

特に人間関係や学部で学んだ基礎知識が、現状の金融業界での業務に役立っています。例えば、社外の方との会話では、学んだ知識を活かして話題を広げることができました。また、ゼミ活動でのフィールドワーク経験は、営業や新卒採用担当として学生と接する際に大きな強みとなっています。学生一人ひとりの個性を尊重し、傾聴する姿勢は、大学4年間で培った大切なスキルだと実感しています。

●キャリアに対するサポートはどうでしたか？

非常に充実していました。キャリアセンターの活用や、授業の一環でキャリアについて考える機会があったことで、日常的に将来を意識することができました。また、指導教員の石川教授からは、履歴書やエントリーシートの添削、面接練習など、多方面にわたり手厚い支援を受けました。特に就職活動のピーク時には、週に2回ほど研究室を訪れ、親身に指導していただいたことにも感謝しています。自己分析の際には、率直なフィードバックをいただき、それが今の仕事においても良いお手本となっています。

●就職活動を迎える後輩学生にメッセージをお願いします。

「気負わずに自分らしく取り組んでほしい」と伝えたいです。焦りや迷いが生じることもあるかもしれません、大切なのは周りと比較せず、自分のペースで進むこと。私自身、諦めず努力を続けた結果、今の企業に内定をいただくことができました。焦らず、自分を信じて頑張ってください。

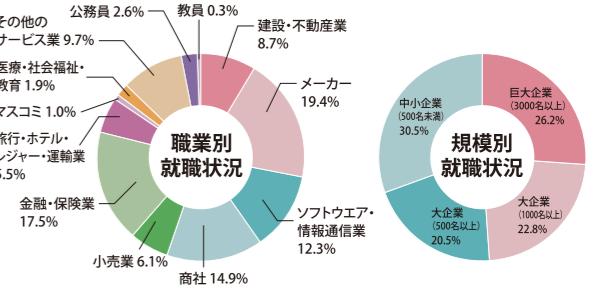


中村 珍奈さん
(2019年3月卒業)
三井住友海上火災保険株式会社
関西総務部 人事総務チーム

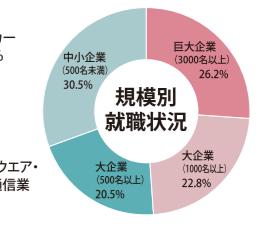
経済学部

主な就職先一覧 >>> 就職率

99.1 %



規格別就職状況



2024年3月卒業生の
就職状況について

2025年3月卒業生の
就職状況はこち
(2025年7月上旬公開予定)



経済学部4年次 辻川喜香さん 経済学部4年次 下家快斗さん 経済学部4年次 柏谷琢司さん
内定先:日本アビオニクス(株) 内定先:岩谷産業(株) 内定先:損害保険ジャパン(株)